

令和8年度 1学年

== 共通教科 ==

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	新編 言語文化 改訂版 (大修館書店)			副教材	国語必携ライトパーフェクト演習 (尚文出版)			対応資格	なし

1 目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、自分の考えが効果的に伝わるように、表現の仕方等を工夫しようとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代文	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。
古文	古文の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまりや古文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	進んで文語のきまりや古文特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。
漢文	漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまりや漢文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、漢文を学ぶ意味について考えを持とうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、観点別の総括をABCで行う。また、前、後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
発表・発言	○	○	○
ノート・プリント		○	○
行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ・教科書・ノート等、忘れ物をしないこと。
- ・授業中は必ずノートを記入すること。
- ・提出物は、提出期限を守ること。
- ・主体的に授業に参加すること。
- ・発表や話し合いは、他者の意見に耳を傾け、お互いに認め合いながら学ぼうという姿勢で臨むこと。

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	学年	1	学科	全学科
使用教科書	最新数学 I (数研出版)			副教材	パラレルノート数学 I		対応資格	なし	

1 目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力がついている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身についている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 数と式 第1節 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則演算ができる。 乗法公式及び因数分解の理解が深められている。 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する際に、すでに学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりできる。 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 整式の整理の仕方に関心を持ち、考察しようとする。 展開と因数分解の関係に着目し、検算に展開を利用しようとする。 不等式の性質から1次不等式や連立不等式解法を考察しようとする。

	ができる。	・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用できる。	・身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式	・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、最大値・最小値を求めることができる。 ・方程式の解とグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	・身近な問題を関数の式で表し、考察することができる。 ・最大値・最小値、方程式の解、不等式の解をグラフを用いて理解しようとする。 ・2次方程式が実数解や重解を持つための条件を式で示すことができる。	・日常生活に見られる具体例から関数を見つけようとする。 ・放物線の性質に興味関心を示し、自ら調べようとする。 ・1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考え、身近な問題を2次不等式を用いて解決しようとする。
第2章 集合と命題	・集合と命題に関する基本的な概念を理解している	・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明できる。	・集合についてそれぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとしている。 ・集合の包含関係が命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。
第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 正弦定理・余弦定理	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解している。 ・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現できる。 ・定理や公式を理解し基本的な問題を解くことができる。	・日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を問題解決に活用できる。 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、正弦定理、余弦定理、公式などを活用して問題を解決できる。	・直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。 ・三角比の相互関係を調べようとする。 ・日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。
第5章 データの分析	・データ分布の特徴を表す代表値の意味と計算方法を理解している。 ・散らばりの指標として、範囲、四分位数の計算方法、箱ひげ図の描き方を理解している。 ・分散、標準偏差が計算できる。	・代表値として平均値を用いることが必ずしも適切ではないことを理解している。 ・範囲、四分位範囲を求め、箱ひげ図をかき、データの散らばり具合を比較することができる。 ・標準偏差によって、データ	・データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ・身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 ・データの散らばり具合をどのように数値化するかを考察しようとする。

		の平均値からの散らばり具合を比較することができる。	
--	--	---------------------------	--

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3 学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		
自学課題	○		○
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

数学は、数学的見方・考え方を身に付けることにより事象を論理的に考察する力、表現する力を養う教科です。座学が中心となりますが、普段の授業を大切に問題意識を持って積極的に授業に参加し、課題や提出物にもしっかりと取り組んでください。

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	1	学科	海洋技術科・食品創造科 機関工学科
使用教科書	科学と人間生活(東京書籍)			副教材	なし	対応資格	なし		

1 目標

自然の事物・現象資質に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献しているかについて理解している。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
1編 生命の科学 1章 微生物とその利用	微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解している。	生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
2編 物質の科学 1章 材料とその利用	身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。	物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用	光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解している。	光や熱の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
4編 宇宙や地球の科学 2章 自然景観と自然災害	自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解している。	宇宙や地球の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連づけて、科学的に考察し表現することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。
5編 課題研究	これからの科学と人間生活の関わり方について認識を深めている。	これからの科学と人間生活の関わり方について科学的に考察することができる。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究態度を身に付け、科学に対する興味・関心を高めている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	地歴公民	科目	公共	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	高等学校 公共(第一学習社)		副教材	なし		対応資格			

1 目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本原理	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であり、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。

<p>第2編 自律した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち</p> <p>第1章 法的な主体となる私たち</p> <p>第2章 政治的な主体となる私たち</p> <p>第3章 経済的な主体となる私たち</p>	<p>・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。</p>	<p>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、法や規範の意義及び役割、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p>	<p>・第1, 2編で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で習得した知識及び技能を活用している。</p>	<p>・よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見だし、諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

4 観点別学習状況の評価について

各単元において上記3観点で評価、学期末に観点別の総括をABCで行う。また、学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。詳細は本校教務規定を参照の事。

本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		
ICT 機器の操作	○	○	
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

教科	英語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	2	学年	1	学科	全て
使用教科書	VISTA ENGLISH Communication New Edition (三省堂)			副教材	コパス1800 (東京書籍)		対応資格	なし	

1 目標

外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語5技能の言語活動及びこれらの統合的言語活動を通して、情報・考えなどを的確に理解・表現・伝達し合うなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
外国語の5技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けると共に、外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。	場面に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすると共に、手に入れた情報を活用して、自分の意見を伝える力を身に付ける。	他者を尊重し、配慮しながら、外国語で手に入れた情報を活用し、自分の意見を表現しようとしたり、言語やその背景にある文化の違いに対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の5技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けると共に、外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に表現したりすると共に、手に入れた情報を活用して、自分の意見を伝えている。	他者を尊重し、配慮しながら、外国語で手に入れた情報を活用し、自分の意見を表現しようとしたり、言語やその背景にある文化の違いに対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしたりしている。

3 【指導項目】 Lesson ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Pre-Lesson 1 1) 現在形の be 動詞 2) 現在形の一般動詞	現在形の動詞を使った文を読んだり聞いたりして、人物の現在の状態や動作を理解できる。	現在形の動詞を使って、現在の自分の状態や動作を話したり書いたりして、相手に伝えることができる。	相手に自分自身のことを伝えることで、相手とコミュニケーションを円滑に取ることができる。
Lesson 1 The Aurora 1) 過去形の be 動詞 2) 過去形の一般動詞	過去形の動詞を使った文を読んだり聞いたりして、結衣の春休みの出来事を理解できる。	過去形の動詞を使って、過去の自分の状態や動作を話したり書いたりして、相手に伝えることができる。	オーロラについての関心を高め、オーロラを通して、その国の持つ文化について知ろうとする。
Lesson 2 Soy Meat 1) 現在進行形 2) 過去進行形	進行形を使った文を読んだり書いたりして、人物が今・過去のある時点で何をしていたかを理解できる。	進行形を使って、今・過去のある時点で自分がやっていたことを相手に伝えることができる。	大豆ミートの生まれた背景と、そのメリットについて興味を持ち、詳しく知ろうとする。

Lesson 3 Capsule Toys 1) 助動詞 can/will 2) 助動詞 may	助動詞を使った文を読んだり聞いたりして、カプセルトイについて理解する。	助動詞を使って、自分のことができること、自分がしようとしていることを相手に伝えることができる。	カプセルトイについて学び、その魅力と歴史について興味を持ち、詳しく知ろうとする。
Lesson 4 Pictograms 1) 主語・目的語の動名詞 2) 補語・前置詞の後ろの動名詞	動名詞を使った文を読んだり聞いたりして、ピクトグラムを作る上で大変なことが何なのかを理解できる。	動名詞を使って、自分にとって大変なことを相手に伝えることができる。	オリンピックに使用されたピクトグラムについて、それがどのようなスポーツかを知ろうとする。
Lesson 5 We Are Part of Nature 1) 不定詞名詞用法 2) 不定詞副詞用法 不定詞形容詞用法	不定詞を使った文を読んだり聞いたりして、岩合光昭が写真家として成功している秘訣や、私達が生きていく上で必要なことが何かを理解できる。	不定詞を使って、学校生活を送る上で大切なことを相手に伝えたり、自分にとって嬉しいことを相手に伝えたりすることができる。	岩合光昭の写真家としての流儀を学び、自然と生活することの大切さを知ろうとする。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。また、学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評価に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト	○		
定期考査	○	○	
調べ学習・レポート		○	○
発表		○	
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

英語は座学と実技の2つの側面を持っています。そのため、テストだけ頑張っても良い成績は残せません。普段の授業を大切に、発表や調べ学習にも積極的に取り組んでください。

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	学年	1	学科	全学科
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館)			副教材	保健体育ノート		対応資格		

1 目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育理論 1. 「スポーツの文化的現代のスポーツの発展」	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に主体的に取り組もうとしている。
体育理論 2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。		
体育理論 3. 豊かなスポーツライフの設計の仕方	豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。		
集団行動	様々な環境下で実践する際の集団の一員としての自覚や行動を実践するための技能を習得している。	集団の中の一員としての自覚をよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	集団行動を自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすることや、健康・安全を確保しようとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体づくり運動	様々な環境下で実践する際の健康・安全の確保の仕方やマナーなどの多様な関わり方を実践するための事項を理解している。 地域社会での活動などの企画や運営、健康・安全の確保、スポーツを通じた良好な人間関係の形成する際などに求められる技能を習得している。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	生涯にわたってスポーツを実践していく際の協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めスポーツの推進及び発展に寄与する自己の姿勢や他者、地域社会との関わり方などのスポーツ価値を高めることに主体的に取り組もうとしている。
器械運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技している。	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、一人1人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。
サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。
水 泳	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。	泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。
柔 道	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方に取り組むよう、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。後期期末(年度末)には、それぞれの学期の観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- a, A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- b, B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- c, C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で書く観点の評価をおこなう。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技試験	○		○
発表・話し合い		○	○
発言・行動観察		○	○
自己評価・相互評価	○	○	

5 担当教員から

体育館、グラウンドで授業を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、ジャージ等の忘れ物が無いよう注意すること。

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	1	学科	普通科
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			副教材	保健ノート		対応資格		

1 目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

項目名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 1 単元 現代社会と健康			
1 健康の考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2 私たちの健康のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 		

3	生活習慣病の予防と回復	<p>・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。</p> <p>・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4	がんの原因と予防			
5	がんの治療と回復			
6	運動と健康			
7	食事と健康			
8	休養・睡眠と健康	<p>・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・薬物の乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。</p> <p>・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
9	喫煙と健康			
10	飲酒と健康			
11	薬物乱用と健康	<p>・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。</p> <p>・精神疾患の予防と回復について、自他</p>	精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
12	精神疾患の特徴			
13	精神疾患の予防			

14	精神疾患からの回復	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<p>や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	
15	現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
16	感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 	
17	性感染症・エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	
18	健康に関する意思決定・行動選択	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
19	健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があ 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理 	

		ることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
保健編 2 単元 安全な社会生活				
1	事故の現状と発生要因	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。	安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	安全な社会の形成	・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
3	交通における安全	・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4	応急手当の意義とその基本	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
5	日常的な応急手当	・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。		
6	心肺蘇生法	・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用が必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。		

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくははすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。後期期末(年度末)には、それぞれの学期の観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定	【目標の実現に向けた学習状況】 a, A:「十分満足できる」状況と判断されるもの b, B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの c, C:「努力を要する」状況と判断されるもの
AAA	5	
AAB	5	
ABB	4	
AAC	4	
ABC	3	
BBB	3	
BBC	3	
ACC	3	
BCC	2	
CCC	1	

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	%ではなく、 ○で表現した
単元テスト	○	○		
発表・話し合い		○		
ワーク		○	○	
発言・行動観察			○	
自己評価・相互評価			○	

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、教科書・ワーク等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年	1	学科	全学科
使用教科書	Survive!! (教育図書)		副教材			担当教諭	石川 佳寿美佳 (いしかわ かずみ)		

1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る知識・技能を身に付けている。	生涯を見通して家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

単 元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 人の一生と家族・家庭及び福祉 ・生涯の生活設計 ・青年期の自立と家族・家庭 ・子どもの生活と保育 ・高齢期の生活と福祉 ・共生社会と福祉	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉等の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会に果たす役割の重要性について問題を見出し、課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分の家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
B 衣食住の生活の自立と設計 ・食生活と健康 ・衣生活と健康 ・住生活と住環境	ライフステージや目的に応じた衣食住生活について理解しているとともに、必要な技能を身に付けている。	衣食住生活について、問題を見出し、課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分の家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

C 持続可能な消費生活・環境 ・生活における経済計画 ・消費行動と意思決定 ・持続可能なライフスタイルと環境 ○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	生活を主体的に営むために必要な消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともにそれに係る技能を身につけている。	持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について、問題を見出して課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組んだり改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分の家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
--	---	--	--

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括をABCで行う。学年末には、それぞれの学期の観点別の評価を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】
 A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
 B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
 C: 「努力を要する」状況と判断されるもの



なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	○
実験・実習	○	○	○
小テスト	○		
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート		○	○
発言・行動発言			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ① 提出物は期日までに必ず提出してください。調理実習のレポートは原則翌日提出です。未提出の場合は評価しません。
- ② 忘れ物 (教科書・ファイル・材料・エプロン・バンダナ他)・遅刻・居眠りは減点とします。
- ③ 考査は100点満点。授業をよく聞き、メモをとることで得点につながります。
- ④ 「次に使う人が気持ちよく使えるように後片付けをする」ことでみんなが気持ちよく実習室を使うことができます。相手の立場に立って想像力を膨らませ、常に思いやりの気持ちを持ちましょう。
- ⑤ 国際社会で生きる日本人としての自覚をしっかりと持ち、高校卒業後の自立した自分をイメージしてポジティブに実践していきましょう。